



学校教育目標
自分と相手を大切にし、
考えて行動する名瀬っ子

名瀬小だより

6月号

令和8年5月29日
横浜市立名瀬小学校
校長 宮崎 博隆



思いやりと笑顔が広がった一日

校長 宮崎 博隆

少し肌寒さの残る曇り空の一日でしたが、子どもたちの声と動きに包まれて、名瀬リンピックを無事に終えることができました。今年のスローガンは「名瀬っ子みんながおーちゃんだ!!～一人ひとりが笑顔を大切にする名瀬リンピックにしよう!～」でした。「おーちゃん」の「お」は、思いやりの「お」。今年は、思いやりと笑顔を大切にしたい運動会となりました。

個人種目では、低学年の子どもたちが、にこにことした表情で走る姿がとても印象的でした。一方で、高学年になるにつれて表情がぐっと引き締まり、力を振り絞って走る姿にも心を打たれました。また、係の仕事をしなからでも手を止めて拍手を送る子どもや、走り終えた後もこれから走る仲間をしっかりと呼びかける子どもたちの姿も見られました。誰かのために自然と気持ちが動く、そんな姿が、あちらこちらに広がっていました。

さらに、「疾風迅雷 名瀬小リレー」では、4年生から6年生の選抜選手たちが力を発揮しました。休み時間にバトンパスの練習に一生懸命取り組んできた姿を見てきたので、その成果が本番の随所に表れているように感じました。リレー競技では、わずかな受け渡しも難しいものですが、名瀬小リレーでは1チームで11回のバトンパスがあります。子どもたちは一つひとつのつなぎを大切にしながら、次の走者へと懸命にバトンを渡していました。学年が上がるにつれて走りには力強さと迫力が増し、風を切って走る姿に全校が見入っていました。仲間へつなぐその一人ひとりの動きの中に、ここでも「おーちゃん」の姿を見ることができました。

1・2年生の「ぐるぐるミルクサンバ」では、真剣な表情で踊る子もいれば、笑顔いっぱい体を動かす子もいました。そのどの姿からも、その子なりに今の自分を素直に表現しようとする気持ちが伝わってきました。

3・4年生の「4フラッグアドベンチャー」では、練習当初はなかなかそろわなかった動きが、本番では見事に一つにまとまり、旗のはためく音も心地よく重なって聞こえてきました。当日のほどよい風も味方となり、子どもたちの成長をより感じる場面となりました。

5・6年生の「煌・団・全ソーラン」では、6年生がこれまでの経験を生かして5年生を導く姿が印象的でした。腰を落として力強く動く様子や、精いっぱいのかげ声には、ここまで積み重ねてきた時間が表れていました。当日の姿の裏にある努力や思いを感じ、胸が熱くなりました。

また、高学年の子どもたちは、各委員会の役割を担い、運営面でもこの行事を支えました。その責任ある姿は、大変頼もしく、立派でした。こうした子どもたちの姿を職員同士で共有し、その成長を喜び合えることも、本校の大きな強みであり、誇りでもあります。

名瀬リンピックは、新しい学年・学級での生活が始まって間もない中、全校が一つとなって素敵な時間を創り上げた行事でした。この経験をそれぞれの学級や学年に持ち帰り、日々の学びの中でさらに深めていってほしいと思います。そして、少し慌ただしかった日々から一息つき、あいさつや整理整頓といった丁寧な生活を、改めて大切に積み重ねていきたいです。

最後に、本行事の実施にあたり、PTAの係の皆様には多大なるご支援をいただきました。また、名瀬中学校の生徒の皆さんもボランティアとして力を貸してくれました。保護者や地域、ご来賓の皆様の温かいまなざしの中で、子どもたちが思いきり力を発揮することができましたことに、心より感謝申し上げます。名瀬小学校のよさは、このようなつながりの中にあることを、あらためて実感しています。

これからも、名瀬っ子一人ひとりの中にある思いやりと笑顔が、日々の生活の中で広がっていくよう、教職員一同、子どもたちを支えてまいります。